

幼児を持つ保護者のための食育意識尺度の作成（予備調査）

Creating a food and nutrition education awareness measure for parents with young children
(preliminary investigation)

吉田 真知子¹, 岩瀬 靖彦²

¹大妻女子大学大学院人間文化研究科, ²大妻女子大学家政学部

Machiko Yoshida¹ and Yasuhiko Iwase²

¹ Graduate School of Studies in Human Culture, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

² Faculty of Home Economics, Otsuma Women's University

12 Sanban-cho, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan 102-8357

キーワード：幼児，食育，保護者

Key words : Young children, Food and nutrition education, Parents

抄録

本研究では、幼児の保護者を対象に食育の教育効果を測定する評価尺度を作成するための予備調査を行った。その結果、3因子構造からなる食育意識尺度が得られた。今後、本調査において信頼性・妥当性が検討された尺度作成を行うための予備調査として、十分な結果を得ることができた。

1. 目的

平成17年に制定された食育基本法^[1]により食育の重要性が強調され、食教育に携わる管理栄養士への期待が高まっている。食教育は学校における食育をはじめ、地域での健康教室など様々な場面で実施されており、各対象者に合わせた教育計画に基づいた実践事例や効果が報告されている。実践報告の中では、食習慣が十分に確立されていない園児や学童を対象とした食教育の実践報告は多くなされているが、子供の食事を担っている保護者への食教育の方法は確立されていない。

食育は、保育所保育指針^[2]において「子どもが生活と遊びの中で、意欲を持って食にかかわる体験の積み重ね・食べることを楽しみ、楽しみあうこと」と示されており、幼稚園教育要領^[3]においては、「望ましい食環境の形成・食べる喜びや楽しさ・食べ物への興味や関心」が示されている。平成23年に示された「第2次食育推進基本計画」^[4]では、「子供の食育における保護者、教育関係者の役割」として「子どもが楽しく食について学ぶことができるような取り組みが積極的になされるよう施策を講じる」と記されており、教育機関だけではなく、保護者も子どもの食育に関わるよう求められている。

保護者への食育実践報告として、佐藤ら^[5]は幼児への食育に加え保護者への食育手帳やリーフレットでの食育、會退ら^[6]は保護者と子どもの両方を対象に幼児の偏食をテーマとする、社会的認知理論に基づくパネルシアターによる食育実践報告がされているが、評価方法としては事前事後のアンケートの比較によるものが多く、評価尺度（アンケート）自体の妥当性の検討がされたものはない。そこで本研究では、幼児の食生活を担う保護者を対象として食育を行うにあたり、保護者への食教育の教育効果を測定する評価尺度を作成する為の予備調査を目的とした。

2. 方法

1) 調査対象者・実施日及び調査方法

千葉県と埼玉県の子育て支援センター4園の保護者を対象に、2016年3月自記式質問紙法による調査を実施した。対象者には、幼稚園教諭から封筒に入れた調査用紙を配布し、回収は幼稚園教諭及び、送迎バス添乗員により回収した。配布数は829部、回収353部（42.6%）のうち、不備の無い348部（42.0%）を分析対象とした。

2) 尺度項目の作成

「楽しく食べる子どもに～保育所における食育

の提供ガイドライン^[8]において、食育のねらいとして食と子どもの発達の観点から挙げられている5項目「食と健康」「食と人間関係」「食と文化」「いのちの育ちと食」「料理と食」から具体的な尺度項目として58項目を抽出した。各質問項目は、「とても関心がある」から「全く関心がない」の5段階評価とした。

3. 結果

1) 因子分析による尺度項目の選定

統計処理には、統計パッケージ SPSS を用いた。主因子法・バリマックス回転により因子分析の結果、負荷量が0.40以下の項目を削除し、因子分析を繰り返した結果、37項目に絞られ、11回の反復で回転が収束し3因子構造が最も適切であると判定された。回転後の累積寄与率は39.47%であった。

第1因子は17項目からなり「10.おこさんと一緒に食材を買いに行くことについて」、「25.お子さんに料理をもりつけてもらうことについて」などの項目に高い負荷量をもつことから「食事づくりの因子」と命名した。

第2因子は14項目からなり「『おいしいね』などおいしさを分かち合うことについて」、「食事を楽しむために、きちんと座って食べることについて」などの項目に高い負荷量をもつことから「食を楽しむ因子」と命名した。

第3因子は6項目からなり「決まった時間に決まった量のおやつを食べさせることについて」、「食事の前に手洗いをさせることについて」などの項目に高い負荷量をもつことから「食とマナー因子」と命名した。

2) 尺度の信頼性の検討（内的整合性）

各因子は下位尺度とし、内的整合性を検討するために α 係数を算出したところ、「食事づくり」で $\alpha=.92$ 、「食を楽しむ」で $\alpha=.86$ 、「食とマナー」で $\alpha=.75$ と十分な値が得られた。

4. まとめと今後の課題

本研究において、保護者の食教育の教育効果を測定する評価尺度として、全37項目から構成され3因子構造からなる食育意識尺度が得られた。今後の本調査で信頼性・妥当性が検討された尺度作成を行うための予備調査として十分な結果を得ることができた。

5. 付記

本研究は大妻女子大学人間生活文化研究所の「大学院生研究助成」(DA2716)の助成を受けたものである。

6. 参考文献

- [1]厚生労働省告示第141号：“保育所保育指針”
<http://www.eqg.org/oyanokai/shishinzenbun.pdf>,(参照2014-4).
- [2]文部科学省：“幼稚園教育要領”
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm,(参照2014-4)
- [3]内閣府：“第2次食育推進基本計画”
<http://www8.cao.go.jp/syokuiku/about/plan/pdf/2kihonkeikaku.pdf>,(参照2014-4)
- [4]名村靖子, 東根裕子, 奥田豊子：保護者の食意識が幼稚園児の食生活, 食関心に及ぼす影響, 大阪教育大学紀要, 2009, 57(2), p.27-36.
- [5]佐藤ななえ, 林英美, 吉池信男：幼児の咀嚼行動にかかわる教育プログラムの開発とプロセス評価. 栄養学雑誌, 71, No5, 264-274 (2013)
- [7]會退友美, 赤松利恵：社会的認知理論を活用した幼児の偏食に関するプログラムの実践. 栄養学雑誌, 70, No.6, 337-345 (2012)
- [8]厚生労働省：“保育所における食事の提供ガイドライン”
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/shokujiguide.pdf> (参照2014-4)

表1. 因子分析結果（因子負荷量）と尺度の項目

質問項目	I	II	III	共通性
10) お子さんと一緒に食材を買いに行くことについて	.68	.21	.05	.52
25) お子さんに料理を盛り付けてもらうことについて	.65	.29	.10	.52
14) お子さんと一緒に野菜を育てることについて	.64	.14	.18	.47
5) お子さんに料理をしているところを見せることについて	.63	.43	-.06	.58
29) お子さんと育てた食べもの(野菜など)を使って料理をすることについて	.63	.19	.24	.49
34) お子さんと、畑や農場など食べものを育てている場所に行くことについて	.63	.01	.33	.50
15) お子さんと一緒に料理をすることについて	.62	.37	-.14	.54
18) 郷土料理を家庭の食卓に取り入れることについて	.54	.17	.28	.41
33) 地元(同県)で作られた食べものを買うことについて	.54	.07	.30	.38
39) お子さんに食べものの旬について話をすることについて	.52	.21	.42	.50
30) お子さんに食材の色や形、香りなどに感じさせることについて	.51	.39	.25	.48
23) 旬の食材を取り入れることについて	.51	.33	.29	.45
48) 食卓にマットや花を飾るなど、楽しい雰囲気作りをすることについて	.47	.21	.37	.40
13) 日本の行事食(正月やひな祭りなど)を取り入れることについて	.46	.27	.21	.33
12) お子さんが食事をするとき、お子さんが自分で食べることを尊重することについて	.44	.32	.20	.33
11) ご自分が好きな食べ物を食べるとき、美味しそうな顔で食べることについて	.42	.34	.14	.31
52) ご飯が出来たとき、明るい声で呼びかけることについて	.41	.37	.39	.46
2) 「おいしいね」などおいしさを分かち合うことについて	.24	.58	.05	.40
37) 食事を楽しむために、きちんと座って食べることについて	.06	.58	.31	.43
26) 1回の食事に主食・主菜・副菜をそろえることについて	.24	.55	.18	.40
7) 「皆と食べるとおいしいね」など共に食べることの喜びを伝えることについて	.30	.53	.19	.40
22) 食事を通してお子さんに愛情を表現することについて	.35	.52	.19	.43
50) 食事のとき、お子さんと一緒に「いただきます、ごちそうさま」の挨拶をすることについて	.12	.50	.40	.42
24) 食べものを作ってくれる人に感謝の気持ちをもつことについて	.35	.50	.13	.38
45) 朝食を食べさせることについて	.11	.46	.10	.23
1) できるだけ多くの食品を料理に取り入れることについて	.13	.46	.22	.27
21) 3色(赤・黄・緑)を意識して食事を作ることについて	.27	.45	.28	.35
47) スプーンや箸の使い方を身につけさせることについて	.18	.44	.28	.31
20) お子さんに食卓の準備(箸やお茶碗並べなど)を手伝ってもらうことについて	.32	.43	.14	.31
35) お子さんが料理を手伝うとき衛生面に気をつける(手洗いなど)ことを教えることについて	.17	.41	.22	.24
55) 食事のときにひじをついたりさせない	.13	.39	.26	.24
49) 決まった時間に決まった量のおやつを食べることについて	.12	.24	.66	.51
57) 食事(朝・昼・夕)の時間を守ることについて	.14	.36	.52	.42
53) 食事の前に手洗いをさせることについて	.17	.33	.47	.36
32) 食事のときは、テレビを見たりやゲームなどをしてないようにさせることについて	.13	.09	.45	.22
31) 食事の前にお腹が空くリズムをつけさせることについて	.20	.31	.44	.33
51) 食器を置く位置[茶碗(左)や汁椀(右)]などについて	.27	.21	.42	.29
因子寄与	6.16	5.10	3.35	14.60
累積寄与率	16.65	30.43	39.47	

Abstract

In the present study, we carried out a preliminary investigation in order to create a rating scale to measure the educational effect of food and nutrition education to target the young children of parents. As a result, food and nutrition education consciousness scale consisting of three factors structure was obtained. In the future, as a preliminary study for performing the measure creates reliability and validity has been investigated in the present study, it was possible to obtain satisfactory results.

(受付日 : 2016 年 6 月 22 日, 受理日 : 2016 年 7 月 1 日)

吉田 真知子 (よしだ まちこ)

大妻女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程 3 年

大妻女子大学大学院人間文化研究科修士課程修了.

専門は栄養教育, 給食経営管理.

現在は幼児及びその保護者を対象とした栄養教育の研究を行っている.